

(報告書)

居酒屋における飲食と喫煙と発話の並行現象の分析

—喫煙習慣のある高齢者を対象に

助成研究者 中田 梓音 (国立民族学博物館)

1. 研究目的

喫煙は、休憩時や食後という区切りに多くみられる行動であるが、居酒屋においては飲食が完了しないうちに喫煙がおこなわれる光景をよく見る。また、飲食と会話(従業員やその場に居合わせた客などと)が並行しておこなわれることもしばしばある。この、発話と飲食そして喫煙という行為がどのように並行しておこなわれているのかに、本研究は注目した。とりわけ、喫煙習慣を持つ中高齢者を対象とし、飲食や会話のどのような場面で喫煙行動を始めるのかといった調査から、なんらかのパターンを抽出することを試みる。このうち長い喫煙年数をもつ喫煙者(30年以上)を対象としたのは、喫煙習慣が長いほど、喫煙行動が身体の中でパターン化している可能性が高いからである。

たばこに関する研究は、医療と健康に関するもの(南山堂、2017)や統計学的手法を用いて心理学的に検討したもの(横光 他、2015 岩佐 他、2019)は多くみられるが、喫煙者が実際どのように喫煙しているかを分析したものはない。

さらに、2020年の東京オリンピックに向けた喫煙場所の減少と、それに伴う加熱式たばこや電子たばこが急速に普及するなか、それらが紙巻たばこの代替品として機能する可能性を検討する。公共の場である居酒屋での喫煙について、当事者はどのような意識を持ち喫煙しているのかという意識調査もあわせて、たばこの意義と、嗜好品としての喫煙のありかたを考察する。

2. 方法

(1) 飲食店で喫煙する喫煙者へのインタビューおよびアンケート

近畿圏(大阪、京都、滋賀)の飲食店(個人経営の喫煙可能な飲食店)7軒において、飲食店の責任者に研究内容に関しての同意と調査の許可を得た。店内で喫煙する喫煙者(47名)に、個別にインタビューをおこなった。主な質問項目は、・日常生活での喫煙状況(場所、喫煙本数、常用たばこの銘柄等)について・喫煙年数とその理由・加熱式たばこを含む喫煙器具に関する意識・その他、たばこの味やにおいについて、である。

その場での調査が困難な場合には、インタビュー内容と同等の質問項目を記載した

アンケート用紙を渡し、自由記述で後日提出してもらった。これらのうち、喫煙年数 30 年以上と回答した喫煙者で、録音および録画に協力の承諾を得た喫煙者（8 名）を主な調査対象者とした。

(2) 実際の喫煙行動のデータ収集

基本的に営業時間内の調査となるため、調査者は店内の客として滞在しながら観察・記録をする傍受観察を中心におこなった。客の来店時から店を出るまでの、喫煙のタイミング、その前後の発話や飲食の状況などを記録した。記録には、目視によるメモ記録と IC レコーダーによる録音をおこない、店内状況により、撮影が可能な場合には iOS 端末による動画の撮影をおこなった。調査対象者の基本情報は以下のとおりである。

表 1.調査対象者の基本情報

※	A	B	C	D	E	F	G	H
1	73	68	65	60	58	66	64	67
2	男	男	男	男	男	女	男	男
3	50 年 以上	40 年 以上	40 年 以上	40 年 以上	30 年 以上	40 年 以上	40 年 以上	40 年 以上
4	6	5	5	5	4	4	4	4
5	約 20 本	約 20 本	約 30 本	約 20 本	約 10 本	約 15 本	約 20 本	約 20 本
6	メビウス 1mg	メビウス 8mg ピース 10mg・6mg アメリカンス ピリット 8mg	カプリ 6mg マルボロメ ン ソ ール 8mg	メビウス 6mg	メビウス 1mg	メビウス 3mg	メビウス 1mg	マルボロ ミディア ムボック ス 8mg
7	なし	なし	アイコス	なし	ブルーム テック	グロー	なし	アイコス

※先頭行は調査対象者

※最左列は次の項目...1 年齢、2 性別、3 喫煙歴、4 喫煙データ記録の回数、5 1日当たりの紙巻たばこの量、6 常用紙巻たばこの銘柄、7 加熱式たばこおよび電子たばこの所有

通常、客は入店し、着席後、飲み物（酒）を注文する。酒とつきだし（店側から提供される有料の小鉢）が出てくると、酒を飲みながらメニューを見て食べ物を注文、注文したものがでてくるまで喫煙、あるいは逆に喫煙しながらメニューを見て、注文を決める。その後、酒を飲みながら料理を食べ、そのあいまに喫煙したり、店の従業員や居

合わせた他の客と会話したりを繰り返しながら最後に会計をして店を出る、という流れになる。これらの音声データおよび動画データとメモ記録を確認しながら喫煙の回数およびタイミング、飲食物や発話内容などの行動を整理する。

管見の限り類似の研究は見当たらなかったため、データの整理方法は独自のものである。ここでは口（くち）の使用状況をみることに特化し、着席してから席を立てて帰るまでの主な行動をアルファベットに変換し、時系列で整理した。

例：N/S T H O S //

N（飲む）...液体を口に入れる行為、S（吸う）...口にたばこをくわえて吸引し煙を吐く行為、T（食べる）...食物を口に入れる行為、H（話す）...誰か（店長・店員・知り合いの客）に話しかける行為または誰かの話しかけに答える行為、O（その他）...携帯電話を触る、自分で水割りを作る、店のテレビを見る、なにもしていない、等、口を使用しない行動。また、斜線 1 本は点火、斜線 2 本は灰皿で火を消す行動を示す。

このうち、点火前の行動(N/S,T/S,H/S)に着目し、飲食(N/S,T/S)であれば、飲食物の種類を記録し、発話(H/S)であれば、その前後の会話を文字起こしした。

その後、調査対象者には、紙巻たばこの代わりに加熱式たばこ（IQOS、glo、Ploom TECH）で過ごす実験観察をおこない、同様に記録・整理した。

3. 結果

結果は以下のとおりである。以下、特に断りがなければ「たばこ」は紙巻たばこを指すものとする。全 37 回の記録中喫煙場面は 356 場面、そのうち分析の対象としたのは N/S 139 場面、T/S 78 場面、H/S 43 場面で、O/S および明確に判断できないもの 96 場面は除く。

(1) たばこの点火（/S）前の飲食について

(1) 喫煙前の飲酒の種類（N/S）

喫煙の前に口にする酒の種類は、ビール、焼酎、日本酒がみられ、ワイン、ウィスキーを飲んでいる対象者はみられなかった。ビール、焼酎、日本酒のうちでは焼酎が多かったが、焼酎を好む対象者が多かったため、喫煙の契機となるような特定の酒類はみられなかった。インタビューやアンケートでは 47 名全員が「酒を飲むとたばこが吸いたくなる」と答えたが、酒を 1 口飲むたびに喫煙するわけではなく、また必ずしもグラス 1 杯を飲み終えた区切りに喫煙するものでもない。

(2) 喫煙前の食物の種類（T/S）

肉、魚、野菜、まんべんなくみられ、食物の調理方法も揚げ物、焼き物、生食とさまざままで、特定の食物や調理方法の後の喫煙はみられなかった。インタビューやアンケートでも特定の食物の後にたばこを吸いたくなると答えた人はいなかったため、食物とたばこの味の相性を気にしているようには見受けられない。また、飲酒同様、1

口ごとに喫煙、または料理 1 皿を食べ終わった区切りに必ずしも喫煙するものではない。

(2) たばこの点火 (I/S) 前の発話について (H/S)

(1 発話内容

目の前の料理や食材に関する発話、ニュース一般、自分の生活の話、店の繁盛具合や、共通の客に関する発話がほとんどで、「これからたばこを吸う」というような宣言はもちろん、たばこそのものに関する発話はなかった。たばこに点火した前後で話題が転換することは相手にやるべきことができた（他の客から注文を受ける、電話がかかってくる等）場合以外ほとんどなく、継続していることから発話後の喫煙も話題の完了を示す区切りとしてのものではない。以下に会話を抜粋した事例を示す。()内は会話参加者、後ろのアルファベットと数字は調査対象者と何回目のデータかを示す。

事例 1

(喫：調査対象者 C 客：隣の客 C3 より)

((前略))

客：先祖が宮本武蔵ゆうとったで

喫：だれが？

客：あの...しまださん

喫：なんで宮本武蔵なんか、あのただの、細川家の（聞き取り不能）

客：宮本武蔵はでてきてへん

喫：あははは。いやちゃうでそんとき宮本武蔵は（聞き取り不能）子はおらん

客：それはわからん、わからん。

喫：でも宮本武蔵いっぱいおんねん。だから、なんの武蔵かわからへん。

宮本武蔵いっぱいおんねん、あははは

(点火)

客：わからんそれは、わからへん

喫：宮本武蔵、いっぱいおんねん

客：うん、なんか文書にあっちもこっちも残ってるって

喫：残っとんねん

((続く))

調査対象者 C が居合わせた顔見知りの男性客と会話を交わしている。点火前にしていた宮本武蔵の話題が点火後も維持されている。

事例 2

(喫：調査対象者 F 店：従業員 客：隣の客 F2 より)

((前略))

喫：牛も豚もかわいいやん、目かわいいやん、よう食べんわ

店：魚系ばかりですか？

喫：そう

店：肉っけもなし？

喫：なし

喫：母が肉大好きやってん。無理やりちょっとはステーキは食べとったけど、
あんま好きちゃう

店：喜んで食べるものではない？

喫：そう

店：へえー残念。あんなうまいもの

店：喜んでたべるけどなあ？

喫：あたし、あの一、なんか、大田原牛かなんか、(1年前)5万円かなんかの、
よく東京でやってはるやん？

店：うん

喫：あたし、5万円もうてもいらん、いややわ

(点火)

店：あははは悩むなあ、5万円のやつくれるゆうたら食べるけどなあ

客：5万円だれもくれへんわ

店：あははは

喫：5万円やるから食べ、いわれても食べへん

店：あはは、馬も当然？

喫：馬も当然。

((続く))

調査対象者 F と、カウンターの中の女性従業員、居合わせた男性客との会話である。
点火前にしていた、調査対象者 F が肉を好まない話題が点火後も維持されている。

(2 タイミング)

上記のように店の従業員や居合わせた客との会話の途中で喫煙を開始した場合、自身の発話の言い切り後に点火している。その前後を会話分析の手法に従い、記述すると、次のようになる。既出の事例 1・事例 2 からの抜粋である。

事例 1-a

喫：でも(.)宮本武蔵いっぱいおんねん(0.2)だから(.)なんの武蔵かわからへん

(0.5)¥宮本武蔵いっぱいおんねん¥ あははは (0.2) [((点火))

客： [わからんそれは (0.2)

わからへん=

喫：=宮本武蔵いっぱい↑おんねん

事例 2-a

喫：あたし (0.3) ごー5万円もうてもいらんーいややわ [((点火))

店： [あははは悩むなあ::5万

円のやつくれるゆうたら食べるけどなあ=

客：=5万円だれもくれへんわ=

店：=あははは

会話分析は会話をできるだけ正確に記述するという目的に沿い、音の長さや沈黙の秒数、音の重なり場所などを記号化して記載するものである。ここでは音の重なりをあらわす角括弧 [に注目する¹。点火は発話ではないが、ここでは口にくわえたたばこにライターで火をつける音を音声の一部と仮定して記述した。こうした重なりを詳細にみると、自身の発話の後かつ、相手の発話始めでもあるタイミングで点火していることがわかる。こうしたパターンは 43 場面中 35 場面で観察され、残り 5 場面は言い切った後に点火して再び発話するパターン、3 場面は言いかけて点火して続けるパターンであった。発話を続けるのは、相手からの返答がないか、自分の言いたいことがまだ終わっていない場合にみられる。以下の、言いかけて点火する事例は、調査対象者 C に 2 場面、調査対象者 A に 1 場面みられた。

事例 3

(喫：調査対象者 C 客：隣の客 C4 より)

((前略))

喫：今日な、血圧はかったら 170 やってん

客：おお

喫：あの、あすこ、大津の

¹ 他の記号については西阪仰の「トランスクリプションのための記号 [v.1.2 2008 年 1 月] 参照。 www.meijigakuin.ac.jp/~aug/transsym.htm

(点火)

喫：院長きてたところあるやん

客：あのみずほんとかか、うん

((続く))

調査対象者 C が、居合わせた顔見知りの客に、自分の血圧の話をしながらか、途中で点火して発話を続ける。この顔見知りの客は喫煙者であり、C4 のデータのみ、喫煙者同士の会話が観察された。

次に、加熱式たばこを使用して飲食店で過ごす実験観察の結果である。調査対象者には、加熱式たばこ 3 種 (IQOS、glo、Ploom TECH) をそれぞれ 1 回ずつ使用して居酒屋で過ごしてもらい、各調査対象者につき計 3 回のデータを収集した (計 24 回)。対象者の中には、自身で購入した加熱式たばこを所有している人もおり、喫煙者のいない大人数の飲み会や、隣に初対面の非喫煙者が座った場合などの状況で使用することである。

この場合、点火は加熱ボタンを押すという行為に代わり、加熱完了までは 20 秒から 40 秒かかる。また、1 本のスティックあたり 3 分から 5 分あるいは吸引回数 20 から 30 回程度で強制終了される (IQOS、glo の場合)。Ploom TECH は、スティックではなくたばこ 5 本分に相当するカプセルを差し込む手順となる。吸引すると自動的にスイッチが入り、吸引をやめて放置すると消える。1 カプセルあたり 50 吸引という目安はあるが、1 回の使用で吸いきることはないため、他の加熱式たばこのように、1 度の使用中に強制終了されることはない。使用開始の合図となる加熱ボタンを押す前 (Ploom TECH に関しては連続して吸引する最初の吸引の前) を観察したところ、酒の種類、食物の種類に関しては紙巻たばこと同様、多岐にわたっており、発話内容に関しても、加熱式たばこに慣れるまでの確認 (「これ、もういいの？」等) 以外大きく変わることはなかった。

ただし、加熱式たばこの使用中は、

例：N/S S S S S S H S //

のように、飲酒、飲食がほとんどみられず、連続して吸引する傾向がある。発話のタイミングに関しては、自分で点火する紙巻たばこと異なり、加熱式たばこの加熱が喫煙者の発話途中に完了することがあるが、自分の意図しないタイミングであっても、言い切ってから吸引するため発話途中の使用はみられない。

4. 考察

調査対象者は、飲食の合間に喫煙し 1 回の滞在で 10 本程度の喫煙本数となる。連続

した喫煙は見受けられず、15分～30分に1本というある一定の間隔がみられた。その際に摂取していた飲食物は常に飲食途中であり、グラス1杯、料理1皿を終えたことも必ずしも喫煙の契機とはならない。また食材や調理法にもばらつきがみられたため、なんらかの酒や食物が喫煙の契機となっているものとは考えにくい。

たばこの点火の前後で話題が転換していることはほとんどないため、これも会話の収束や話題の転換が喫煙の契機となることは考えにくい。ただし、会話の途中の喫煙の開始には点火するタイミングを調節しているような行動がみられた。

- ・文章を言い切りでおわらせて点火する

会話分析の観点からみると、言い切った後にたばこに火をつけることで自分の発話が終わったことを示し、他の誰かが発話を始めることができる。

- ・言い終わった後に相手の発話があった場合それが終わる前に点火する

相手の発話が終わる前に点火することは、相手の話が終わったら自分が発話できる状態に戻ることであり、点火が妨げにならず話者交替が適切におこなわれるということである。

これによって、他の会話の参加者も、喫煙者が喫煙を始めたことを話題の終了とはとらえず、話題は維持されたと思われる。さらに、以下のように、喫煙者が点火後に点火前の発話と類似した発話を繰り返す現象もみられる。

事例 1-b

喫：でも宮本武蔵いっぱいおんねん。だから、なんの武蔵かわからへん。

宮本武蔵いっぱいおんねん、あははは

(点火)

客：わからんそれは、わからへん

喫：宮本武蔵、いっぱいおんねん

事例 2-b

喫：あたし、5万円もうてもいらん、いややわ

(点火)

店：あははは悩むなあ、5万円のやつくれるゆうたら食べるけどなあ

客：5万円だれもくれへんわ

店：あははは

喫：5万円やるから食べ、いわれても食べへん

この繰り返しにより、会話途中の点火であってもたばこを吸うことが会話の流れを妨げる障害になっていないことを強調しているか、あるいは、会話の途中でたばこを

吸うことが有標²になる危険性を未然に防ぐ修復、橋内（1999：105）のいう「適切性の修復」の発話とも考えられるが、これに関してはさらなる調査が必要である。

加熱式たばこの使用に関しては、飲食物の種類、発話内容ともに目立った相違点はみられなかったが、紙巻での喫煙中にみられた行動（たばこを片方の手に持ったままお酒を飲んだり、たばこを灰皿に置いてエビの殻をむいたり、あるいは口にくわえたまま、焼き魚の骨をとったりするという。）行動が一切みられなかった。これは加熱式たばこが紙巻たばこに比べて重いこと、灰を落とす必要がないこと、また、制限時間があり（IQOS、glo）、吸引の強弱によっては意図せずに強制終了してしまうことに起因すると考えられる。

5. 結論

喫煙習慣の長い喫煙者の飲食店滞在中の紙巻たばこ喫煙本数は平均 9.6 本で、飲食や会話の途中で点火され、各吸引のあいまにも飲食や発話が入り、消火、また飲食や発話、点火を繰り返すパターンである。酒 1 杯や料理 1 皿の飲食が完了するタイミングや飲食物の種類に関係なく喫煙は始まり、飲食物や飲食の完了が契機となるものではない。発話に関しても、必ずしも会話の完了の後に喫煙がみられるわけではなく、喫煙を誘発あるいは示唆するような特定の発話はみられない。インタビューやアンケートでも「吸いたくなったら吸う」「なんとなく」と答えた人が多く、喫煙と喫煙の間に、ある一定の時間があることから、基本的には習慣による喫煙欲求が契機となっている可能性が高い。ただし、点火前の発話の場合、点火のタイミングに注目すると、発話の文章を言い切ってから点火をするというパターンがみられる。これにより、自身の発話が終了し、話者交替のタイミングとなるが、ほとんどの場合、話題転換が起きることではなく話題はそのまま維持される。この際、喫煙者が点火前の発話を点火後も繰り返す行為も話題の維持を促すものである。

これらによって、たばこを吸う行為が会話の妨げにならないことを示す姿勢がみられ、従業員や居合わせた客（特に非喫煙者）に対するポライトネス（会話やコミュニケーションを円滑に進めるための気遣い）が関連していると考えられる。これに関してインタビューやアンケートの結果からは、意図的かそうでないかの判断は困難であるが、どちらにせよ、喫煙者は喫煙行為よりも前に箱からたばこを 1 本取り出したりライターを手元に引き寄せたりして喫煙の準備をおこなっていることから、点火のタイミングは適切な時機を見計らったの点火とみることができる。

喫煙の契機となる直前の飲食物および発話は、紙巻たばこの代わりに加熱式たばこの使用においても特に目立ったものはなかったが、使用本数は平均 5.7 本（Ploom TECH

² この場合、他の会話の参加者に、会話が中断される可能性を感じさせることとする

は本数カウント不能のため除く)で、紙巻たばこの9.6本から4割程度減っている計算になる。喫煙中の行動に関しては、吸引と飲食が並行して行われる紙巻たばこに比べて、加熱式たばこでは1本吸い終わるまで飲食行動は観察されなかったため、紙巻たばこと比べて、他の行動より喫煙行動を優先する、せざるをえない時間や重さに関する制限が明らかになった。

以上のことから、飲食店での紙巻たばこの嗜好品としての条件は、自分のタイミングで点火・消火ができること、口にくわえられる軽さであること、があげられる。これによって飲食を楽しみながらたばこも楽しむという並行行動が可能となるからである。

加熱式たばこは、並行行動は可能ではあるが、本体が重く、使用開始・終了のタイミング調節が難しいことから、喫煙者は飲食や発話よりも喫煙に関わる操作を優先する傾向にある。こうしたことから、加熱式たばこはニコチン摂取を目的とした代替品であって、居酒屋での嗜好品としての紙巻たばこの代替品とはいえない。

最後に、調査対象の喫煙者にとっては、紙巻たばこからゆらゆらと立ちのぼる、いわゆる「紫煙」を見ることも喫煙の一部である。加熱式たばこはそういった周辺要素をそぎ落とした結果、「摂取するときのわくわく感」も失ったように見える。調査対象者たちの表情をみていると、本来、嗜好品は愉しむものであるということを改めて考えさせられた。

6. 主な参考文献

尹文九、『高齢社会の政治経済学—日本の高齢者福祉政策を中心に』、ミネルヴァ書房、2017。

石田光規、『孤立の社会学—無縁社会の処方箋』、勁草書房、2011。

岩佐一・吉田祐子・鈴嶋よしみ、「地域高齢者による『食事関連 QOL 尺度』とその短縮版の計量心理学特性」日本公衛誌、第66巻、第3号、2019、pp151-160。

キノブックス編集部編、『もうすぐ絶滅するという煙草について』、キノブックス、2018。

喫煙文化研究会、『愛煙家通信 CONFORT』、No.25、夏号、2018。

喫煙文化研究会、『愛煙家通信 CONFORT』、No.26、秋号、2018。

宝島社、『別冊宝島 最後のタバコ論争』、2006。

南山堂、『治療 特集：禁煙 up to date 新型タバコなど喫煙対策の最新情報』、Vol.99、No.11、2017。

橋内章、『酒・タバコって本当に悪いの？—ジャパニーズ・パラドックス』、真興交易医書出版部、2005。

橋内武、『ディスコース 談話の織りなす世界』、くろしお出版、1999。

横光健吾・金井嘉宏・松木修平・平井浩人・飯塚智規・若狭功未大・赤塚智明・

佐藤健二・坂野雄二、「嗜好品摂取によって獲得できる心理学的効果の探索的検討」、
心理学研究、第 86 巻、第 4 号、2015、pp354-360。

クラブサンスターHP

<https://www.club-sunstar.jp/>（最終参照日 2019 年 4 月 22 日）

西阪仰「トランスクリプションのための記号」[v.1.2 2008 年 1 月]

www.meijigakuin.ac.jp/~aug/transsym.htm（最終参照日 2019 年 4 月 22 日）

7. 英文アブストラクト

Analysis of a Parallel Act of Eating, Drinking and Smoking at IZAKAYA -Focusing on Elderly Smokers -

Shion Nakata
(National Museum of Ethnology)

The purpose of this study was to analyze parallel act such as eating foods, drinking alcohol, conversing, and smoking at IZAKAYA. I investigated the timing of lighting a cigarette to find out some patterns.

In addition, considering possibility of heat-not-burn cigarette as a replacement of the ready-made cigarette. I conducted the interview and the survey and observed the elderly smokers at IZAKAYA. According to this research, they lit a cigarette regardless of the type of foods and drinks nor the timing of consumption of them. This means the completion of food, drink and conversation is not always the trigger to light a cigarette. Conversation analysis showed that the lighting a cigarette was a trigger to change speaker, but the topic did not switch after smoking. it seems the consideration not disturbing the other speaking. In these respects, there was not conspicuous differences in the case of the heat-not-burn cigarette either. I suggested that smokers did not drink and eat much compare with ready-made cigarette case due to the weight and limited smoking time of the heat-not-burn. Based upon the foregoing, ready-made cigarettes have functions that makes smokers enjoy parallel act impartially. In this respect, the heat-not-burn cigarettes are the replacement for the purpose of the nicotine intake, but they are not the replacement for item enjoying parallel act at IZAKAYA.